

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991600016		
法人名	社会福祉法人 栃の木会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム いしばし		
所在地	下野市上古山569-1		
自己評価作成日	平成22年12月10日	評価結果市町村受理日	平成23年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.t-kjcenter.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成23年1月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

在宅からご入居された方については、居住環境、ご本人や、ご家族の想いを聞き取りの中で汲み取りケアプランや日常のケアに活かそうと努めている。施設での生活が継続している方については、閉塞感や孤独感が無いように、季節のミニドライブや誕生会、お友達との交流などの機会を設けている。ご家族の面会の折には日頃の様子をお話すると共に1か月に1度、「いしばし通信」と生活の記録を綴った「生活の1コマ」を送って臨場感をもってご利用者の様子を報告している。ご利用者を敬い、傾聴し、寄り添うことで一緒に生活していると言う安心感を持っていただいている。

当ホームは市の北部の周囲を住宅地に囲まれた閑静な場所に位置している。近隣には同法人の特別養護老人ホーム等があり、相互に行事に参加する等の連携が図られている。ホームではイメージキャラクターに「うさぎ」を据え、基本理念は全職員での話し合いにより、「うさぎのような大きな耳でご利用者の声を聴きながしませぬ。ご高齢者を敬い優しい心で笑顔で寄り添います。」をつくりあげている。建物の外観はチューダー風のハーフトインバーが目を引き洋風な造りとなっており、室内は外観とは対照的に木材を多用した温かみのある和風で開放感あふれるものとなっている。共用空間や居室は入居者が重度化しても住み続けられる様、ゆとりあるバリアフリー仕様と機械入浴設備等も完備されている。職員は人生の先輩である入居者に対して敬意をもって支援に取り組んでいると共に、「禁句集」を活用しながら言葉遣いにも注意を払っている。開所から3年が経過し、地域との交流にも積極的に取り組んでいるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のミーティングで理念の唱和を行い、意識しながら実践につなげている。理念は玄関、事務所に掲示している。	職員が考え、つくりあげた「うさぎのような大きな耳でご利用者の声を聴きのがしません。ご高齢者を敬い優しい心と笑顔で寄り添います」の理念を掲げ、毎朝のミーティングで唱和しながら、日々の支援の中で実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1戸(9人)として自治会に加入し回覧板を通し情報の共有を図っている。どんど焼き、お神輿、クリーン作戦、廃品回収など声をかけていただき参加している。小学校の運動会へ招待を受けて参加したり、田植え、稲刈りの見学。お花見、文化祭への出品、敬老会、菊花展へも参加し交流を深めている。	近隣住民との関係は良好であり、野菜のお裾分けやホームとの隣接地に入居者も楽しめるようにと草花を植えてくれる等、交流に取り組んでいる。また、自治会にも加入して、地域行事への積極的な参加や、当ホームで行っている夏祭りには自治会長や民生委員、地域住民等の参加もあり、地域の一員として交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事等で実例を交えながら認知症の様々な症状への対応について成功例、失敗例など伝えている。ご家族へも面会の折やお電話の際、変化の様子について説明しご理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「偶数月の第4水曜日14:00より」定期開催を実施しており、月行事及び活動状況を報告し、意見や要望を伺い運営に役立てている。	運営推進会議は家族代表、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員、併設事業所幹部職員等の参加により2か月毎に開催している。会議ではホームから行事や入居者の暮らしぶり等の報告の他、参加者との意見交換や提案が行われ、レクリエーション等のボランティア情報を得て、入居者の生きがい支援に繋がる等、会議を運営に役立てている。	全家族に会議への参加を呼掛ける等の取組みを行っているが、今後、議題によって、多角的に意見を求めていくためにも防災等の議題の時には消防署員や消防団員、警察官への参加を依頼していく等の取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で現状とケアについて積極的に伝え、入居後のフォローにも繋がっている。包括支援センター主催の家族交流会でも協力をしている。下野市社協からは敬老会やクリスマスの時に訪問を受け、お菓子などを頂いている。	運営推進会議の参加時等にホームの現状や入居者の暮らしぶり等を把握してもらっている他、制度上の相談等も随時行われている。地域包括支援センターは同法人で受託していることもあり、業務の連携や地域情報の共有にも取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針であり、職員にも周知徹底している。ミーティングでも意見の交換を行い拘束への理解を深めている。玄関の施錠についてはご利用者の安全を優先し、状況に応じ随時対応している。ご家族にも理解を頂いている。	ホームでは身体拘束の無い支援に取り組んでおり、接遇改善委員会により、身体拘束にあたる行為の理解や防止策、言葉遣いや支援態度等の内部研修を毎月開催し、職員への周知に努めている。玄関は交通事情や入居者の安全性の問題から施錠しているが、地域との交流を考慮して門扉は開放している。	

グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを参考に理解に努めている。ケア困難者への対応についてミーティング時、話し合うことでストレスにならないように努めている。中堅職員の研修参加を予定している。(1月23日)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域で活用できる情報を広報誌などから得る。独居の方が(介護者が甥)あすてらすへ金銭管理を依頼している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前に契約についてのご説明をし、内容の確認を十分にしていたが、疑問点については丁寧に説明している。又いつでも質問を受ける旨を伝えている。解約時はカンファレンスを開催しご家族との話し合いを持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者には、聞き取り調査の実施や日頃の会話の中から、ご家族様には面会時や運営推進会議、行事参加の時に伺うようにしている。アンケート用紙を備えており、気軽に記入できるようになっている。	家族からの意見や要望等は面会時や運営推進会議等で確認に努めている他、入居者の日々の生活状況が把握できるよう「生活の一コマ」を送付している。家族からの要望により、ホーム内に音楽を流す等、意見や要望を支援に役立てている。また、当日勤務の職員の写真を掲示する等、入居者及び家族と馴染みの関係構築にも力を入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティング時に意見を聴く機会を設けている。貴重な意見が反映できるように努めている。会社全体でも、新規事業のアイデア募集やロゴマークのデザイン、柵の木会のキャッチコピーを考える機会を与えている。	職員は職員会議等で管理者と話し合う機会が持たれており、職員からの提案によって、入居者の状態に応じた勤務態勢の見直しや、食事で偏食があるか等を調査して、食材の切り方を工夫する等、職員からの提案を支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時には面接を行い、契約内容の確認や本人の意志の確認など行なっている。資格試験合格時にはお祝い金を出している。資格取得者にはその資格が活かせるように計らっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のスキルアップの為、的確と思われる内外の研修に参加する機会を設けている。研修後は報告書を作成すると共に研修の成果を発表し、他の職員への波及を図っている。		

グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市施設への見学や研修会などで同席した折には情報の交換を行なっている。地域交流のお花見の席で交流を持っている。同法人のグループホームへの研修や相互訪問で交流を持っている。他の施設を見ることで刺激になっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込みの相談を受けてから随時状況の把握や意思の確認を行なっている。居宅ケアマネージャーからの情報提供を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時連絡を取り相談を受けている。入居までの利用施設などのアドバイスや家族、親族などの見学の要望に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援の内容を見極め、他施設の情報提供やサービスの種別のアドバイスを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の生活体験を伺うことで歩んで来られた生活史を大切にしている。長年の経験から教えを頂くことも多い。職員の体験談を話したり話題のニュースについて話合う機会を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時生活の様子など積極的にお話させて頂いている。お茶のおもてなし等家族がゆっくりくつろいで頂けるような配慮をしている。アルバムなどで普段の表情を見て頂いている。いしばし通信や生活の一こまを送付することで離れて暮らしながらも臨場感をもって頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体調に応じ外出や面会の制限をせず、いつでも対応できる姿勢でいる。ケアプランにもご家族が協力できることを組み入れドライブや散歩に出かけるなど家族間で触れ合う時間を大切にしている。	入居時等に家族から馴染みの床屋や食堂等の情報を収集し、馴染みの床屋に散髪に出かけている。また、併設事業所に入居者の知人等がいる場合には交流が続けられるよう訪問している他、家族と手紙のやり取りをしている入居者もあり、本人の馴染みの関係が継続出来るよう努めている。	

グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の正確や精神の状況を把握しトラブルが起きないように座席の配慮や距離を置くことで回避している。職員が話題を提供することでそれぞれがお話する機会をもち交流ができるよう配慮している。趣味の作業を通し利用者間での交流の機会も増えるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居先の面接に立会い、より詳しい情報の提供が出来るように努めた。サマリーやカルテを参考に、住み替えた後でも同様な対応が出来るよう相手先の職員と話し合いを持った。退居後住み替え先に行った折には必ず声掛けしている。退居後もケアの状況について情報の提供に協力をした。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向があった場合、常に傾聴し申し送りや職員会議の場で職員全員が把握し、意向に添えるようにしている。内部研修での認知症の勉強会ではその方の身になって考えてみるという試みによってご本人の想いを汲み取ることへのスキルアップを目指した。	本人の思いや意向の把握は口頭での確認が主だが、表情や仕草等からも推し測る様にしている。また、本人や家族から生活歴や趣味趣向、得意なこと等の把握に努めており、思いや意向の把握にも繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の何気ない会話の中でご家族のこと、得意だったこと、仕事で苦労したことなど伺い、どのような環境で生活していたのか把握に努めている。知りえた情報は経過記録に転記し情報の共有化を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の興味のあるものを一日の流れの中で随時実践して頂いている。朝、夕のミーティング時には個々の活動の様子を報告しミーティング記録を残している。日々の過ごし方を参考にケアプランの評価見直しに役立てている。温度板、経過記録も参考となっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員と家族、あるいは職員同士常に話し合いを持ち日々の変化、状態の情報を交換し把握している。朝の申し送りは夜間、及び日中の様子から得られる情報交換の場として活用している。ケアの変更、新規の対応に対しては申し送りノートで確認できるようになっている。	本人及び家族の要望を確認したうえで、日常生活動作等を職員間で検討しながら介護計画を作成している。家族からは足腰を中心としたリハビリ支援の要望が多い状況にある。計画の見直しは、モニタリングを行いながら概ね半年毎の見直しの他、状態等に変化がある場合には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日勤帯、夜勤帯で色分けした経過記録への記入や変化、気づきがあった場合は、随時生活パターンシートに記録し職員間で情報を共有しケアプラン実施記録等、介護計画の見直しに活かされている。		

グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の要望に応え散髪や買い物、通院、薬受けとりなど状況に応じ個々に実施している。特養で行なわれている華道クラブへの参加や、かつて利用されていたデイサービスのお友達との交流を続けられるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年間を通し地域の方の協力を頂いている。地域の行事、学校行事へ参加させて頂いている。近隣の理美容室へ定期的に出かけたり、担当交番の訪問を受けている。総合避難訓練時には、消防署より講師の派遣をお願いし、避難訓練の指導を受けると共に防災のお話を伺うこととしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族が希望する医療機関に受診や往診をして頂いている。必要に応じ、職員が同席して状態の説明を行い、アドバイスを頂いている。体調に異変が生じた時は、家族、医師との連携により適切な対処をする。	本人及び家族が希望するかかりつけ医での受診を支援しており、以前からの利用している病院での受診が多い状況にある。受診時の付添いは家族にお願いしており、受診結果や処方薬等の情報の共有や主治医とも連携を図りながら、適切な医療が受けられるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	家族が受診に付き添う場合には、ご家族の要望により、あらかじめFAXや電話連絡にて報告するなど、医療関係者とは、常時情報を共有し適切な介護が出来るように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	温度板や経過記録にて詳しい情報を提供する。緊急時の搬送先についても家族と話し合っている。ご利用者の状態により、施設対応にて退院送迎を行った。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は主治医に意見を伺いながらご家族と相談して、今後のあり方を進めている。又、特養への入所申し込み、施設の概要の情報を伝え次のステージへスムーズに繋がるように努めている。特養への働きかけ、情報の提供もご家族の了解のもと行なっている。	ホームの人員や設備面を考えると現状での重度化や終末期の支援は難しい状態にある事から、家族等には入居時等に重度化に伴って医療行為や食事が取れない状態となった場合等には、入院や特養等に移ってもらうことが有る旨の説明を行っている。	今後、慣れ親しんだ当ホームでの終末期を希望される場合も増えてくると思われる事から、重度化や終末期にどこまで援助すべきなのか、出来るのか等、職員との協議や主治医等からの助言も得ながら、ホームの指針や支援体制づくりの検討に取り組んで行くことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会による勉強会を行っている。緊急マニュアルが作成されており常に緊急時を意識している。		

グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力が得られるように働きかけ、定期的に火災避難訓練を行なっている。通報訓練には参加していただいた。	消防署員立会いによる総合避難訓練や通報訓練等も3か月毎に実施している。非常災害時の連絡網には、自治会長、民生委員等に入ってもらっており、地域との協力体制を築いている。	職員が少なくなる夜間時等を想定した避難訓練の実施や近隣住民にも避難訓練等に参加してもらえる様、今後も地域との協力体制の構築に取り組んで行くことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方と視線を合わせ、言葉かけ、言葉遣いに注意しながら、日々対応している。居室への出入り、清掃、入浴準備時、リネン交換時には必ず声をかけ一緒に行なうようにしている。	職員は人生の先輩である入居者へは、親しみの中にも謙虚な態度で接しており、入居者一人ひとりの尊厳や誇りにも配慮した支援に取り組んでいる。また、言葉づかいの事例等を掲載した「禁句集」により、職員への注意を呼掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をじっくり伺い、拒否的な言葉はかけないようにしている。ご利用者に寄り添い共感をし、ヒントやアドバイスで本人が意思表示できるよう導いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の話を傾聴し、日々の健康状態を把握、無理なくお誘いして支援につなげ、参加拒否のあるときは遠くから見守る。又、他の職員からのアプローチに切り替えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備では出来るだけ自力で用意が出来るような支援をしている。好みの衣類が選べるよう、タンスに収納の識別のラベルが貼ってあり、自力で更衣、収納が出来るように配慮している。外出時はヘアメイク、化粧などに気配りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の盛り付けに留意し、味付けは勿論、季節感、見た目、などで満足感を得られるようにしている。月に何度か、イベント食を取り入れている。野菜の下処理、テーブルセッティング、食器拭きなど行なっていただいている。	献立は近隣にある同法人の特養の栄養士が作成したものを元にしながら、職員が入居者の希望等を聞きながら一部をアレンジして調理している。入居者も職員と共に食材の買出し、準備や後片付けも一緒に行ってる。ホームの畑で収穫された野菜や近隣住民からの頂き物の野菜等を使用することもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限、塩分制限の方へは随時対応している。水分摂取が不足になりがちの方へは、声掛けと同時に、介助で摂取していただいている。特に体調不良時は24時間シートにて把握し統一したケアに努めている。義歯や口腔内の状態に応じ、食べ易い形状で提供している。好き、嫌いについても出来るだけ対応するように努めている。		

グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけを習慣とし、口腔ケアを行なっていただくようにしている。必要に応じ介助している。義歯の不具合を確認している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンにより時間誘導をする。パットに失禁があった場合でもトイレに座っていただき排泄動作への働きかけをしている。生活パターンシートを活用により排便、排尿のパターンを知り適切な誘導が出来るようにしている。	入居者一人ひとりの排泄パターンや排泄サインの把握に努め、さりげない声掛けや誘導により、トイレでの自立した排泄支援に取り組んでいる。夜間時の誘導や失禁時等には、本人の生活パターンへの配慮や不安を生じさせない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに野菜を多く取り入れ食事で便秘解消が出来るようにする。夕食前の歩行練習は、胃腸を活発にし食欲を増進させるため棟内を散歩するように促している。ヤクルト400の摂取により乳酸菌、ビフィズス菌の効力を期待し、早朝の水分補給など勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴となっている。順番は決まっておらず、その日の状況で決定し、体調不良時は無理をせず後日へと変更している。拒否のある方へは時間を遅らせ気分の良い時にお誘いするようにしている。	浴室には床暖房が敷設され、窓からは隣接する竹林が借景として見られるようになっており、入居者が重度化した場合にも対応できるよう特殊浴の装置も設置されている。入浴は昼食後から夕方にかけて行われており、拒否傾向がある入居者へは、タイミングや言葉掛けを工夫しながら入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御部屋で過ごされる時間は個々に異なり、睡眠も同様にて個人差がある。昼食後の睡眠は1時間以内としている。(夜間の睡眠障害になるため)、リハビリに参加されず居室に戻ることに無理強いはしない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬についてはお薬一覧があり、個々に内服されている薬とそれらの効能が記されている。又同時に起こりうるであろう副作用についても記されているので随時確認をしている。異変時はすぐに報告をする。内服介助は飲み込みを確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	リハビリ、散歩など日課としてに行なっている。カラオケ、ゲーム、手工芸、スケッチなどはそれぞれの持ち味で行なっている。嗜好品はお茶の時間やおやつなど希望を伺うようにしている。パンや飲み物など個人の買い物として別会計となっている。		

グループホームいしばし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントへの外出は、個々の興味のあるもの、好みによって外出先や内容など厳選している。誕生日のお祝いには家族の協力をお願いしている。ミニドライブでは季節感、(桜、銀杏、菊、藤)を味わっていただいている。買い物、散髪などの支援を行なっている。	天候や入居者の体調にもよるが、出来る限り外出するようにしており、敷地内での外気浴や近隣の散歩、ミニドライブや買い物を兼ねた外食等、家族からの協力も得ながら外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じて職員と共に買い物に出かけたり、希望時には職員がまとめて購入をしている。外出時には手持ちの現金を食事やお土産の購入に使っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じご家族への手紙の代筆に応じたり、暑中見舞い、年賀はがきのやり取りへの支援を図っている。電話についても申し出に応え、かけたり、取次ぎを行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同の空間には、季節の花を飾りご利用者の作品の展示や行事の写真を掲示している。ご利用者からの要望で、行事予定表や通信を掲示するようになった。トイレにはカフェカーテンを配置しプライバシーへの配慮をしている。又やわらかい雰囲気作りの効果もある。	木材を多用した温かみのある共同リビングは広いスペースが確保され、入居者は思い思いにソファ等で寛ぐ姿が見られた。テーブルや壁面には季節の花や職員と入居者が作成した季節毎の作品等が飾付けられている。清掃が行き届いた空間は、温度や湿度、換気も適切に管理されており、居心地良い空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテレビ、本棚、フットマッサージ器があり、いつでも誰でも使用が可能になっている。中央の花びらテーブル席やソファ、テラス席、カウンター席など様々な場所で思い思いの時間を過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたソファ、文机、テレビなどがあり、ご家族やご本人と相談しながら居心地の良い環境作りと過ごし易い工夫をしている。ご主人のお位牌を持参されている方もあり、礼拝をして安心感を持っていただけるようにしている。	各居室には床暖房が敷設されており、冬季でも快適に過ごせる様になっている。ベットとクローゼットはホームで用意しているが、本人の馴染みの使い慣れた品々の持込みは自由であり、家具や家電類、写真や位牌等の小物類も持込まれている。なお、テレビは部屋に閉じこもらないようにと用意しない家族が多い状況にある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレなど理解できるよう表札や案内板など配置している。タンスの収納部にはラベルを貼って衣類の仕分けが出来、一人で出し入れ出来るよう支援している。		